第２号　平成25年９月
発行　白子町農業委員会

白子町

農業委員会だより

○輝け！　白子町の農業

今回は、白子町で輝いている農家及び団体をご紹介します。

個人では「三橋農園」代表・三橋克治さんをご紹介します。

三橋さんが就農したのは平成九年で当時は就職難という事もあり、父の勧めもありましたが、本人は「成り行きでしたね」と淡々と答えました。

取材当日は、ベットの温湯消毒を行っていましたが、就農当時を振り返り、最初は無難なスタートだったので「これは行けるかな」と思ったが、技術は年々微妙に異なり戸惑いもあったそうです。その後、経験を重ね、「最近はある程度の技術は固まりました」と話しています。経営内容は、九〇〇坪のハウスでロックウール方式によりトマトを栽培しています。四年前に経営移譲を受けて三橋農園の代表となり、現在は家族三人・パート四人で頑張っています。今は手堅い経営をしているものの価格変動が一番の心配だと話しています。

将来の経営について伺うと「あえて経営面積にはこだわらないが、自分の右腕となる様な人が現れれば、パートの安定雇用と併せて面積の拡大も検討したい」と力強く語っていました。

今後の活躍を大いにご期待申し上げます。

次に団体ですが、皆さんは白子町にこんなに素晴らしい団体があることを知っていますか。

それは「剃金西ソバの会」です。遊休農地を活用し、ソバ作りを通して高齢化時代を楽しく生きることを目的に平成二十二年七月に設立され、現在の会員数は安井久純会長以下十六名となっており、町内外を問わず加入できる懐の広い団体です。栽培品種も「野呂在来」にこだわり、特に新ソバの香りや甘さは最高で、収量も年々増加しており、今後は販路の拡大を図っていきたいとの事です。

今後の抱負を安井会長に伺ったところ、「収量には問題なく、会員個々のソバ打ち技術も向上してきたので、ソバ打ち体験を通して一人でも多くの人達に美味しいソバを食べてもらいたい。更に〝白子ソバ〟として定着できれば最高です。」と話していました。

なお、シーズン中は直売所〝ひまわり〟でも販売しており、真空パックもありますので是非ご利用下さい。

（委員　三橋　要一郎）

○女性委員の登用に向けて

女性たちの熱意が伝われば、地域の男性たちも協力してくれると思います。

女性は、ヤル気が無いと思い込んでいる男性が数多くいるような気がします。

自信を持って選挙委員に手を上げましょう！

女性が選挙による農業委員として立候補でき、就任後は女性農業委員の活躍を地域ぐるみで支援していけるような地域住民の意識改革を推進しましょう！

（委員　田邉　淳子）

○玉葱の収穫体験

遊休農地解消推進事業の一環で、五井地先に昨年十二月に植付した玉葱を、土に親しみを持ってほしいという思いから、町内三保育所の年長児の親子を招待し、六月に玉葱の掘り取り体験を行いました。

園児たちはとても楽しそうに掘り取りを行っていました。

今年度も引き続き遊休農地の解消に向け活動をしていきたいと思います。

○ＴＰＰとベトナムの稲作事情

平成二十五年七月十五日マレーシアで始まったＴＰＰ第十八回交渉会議に日本は二十三日から参加が認められ交渉に臨みました。太平洋を取り巻く十二か国が参加する交渉に日本政府は「守るべきものは守る」を基本姿勢として、主要農畜産物等五品目「米・麦・肉・乳製品・砂糖」を関税撤廃の対象から除外するよう主張することとしていますが見通しは不透明です。

このような背景の中、白子町農業委員会有志は、ＴＰＰ交渉に当初から参加し「ドイモイ」（刷新）政策で米の輸出拡大に取り組むベトナム社会主義共和国の稲作事情を視察してきましたので、その概要をご紹介します。

ベトナムは、中国・インド等に次いで世界第五位の米の生産国であり、輸出量はインドに次いで世界第二位の輸出国でもあります。今後は更に生産量と輸出量は増加すると見込まれています。

生産地は、広大なメコン川デルタ地域等を中心に四百万haの水田で二～三期作を行い延作付面積は約八百万haと公表されています。栽培品種は、長粒種が中心ですが、近年、高価格で取引されるジャポニカ種「あきたこまち」「花の舞」等の栽培が増加傾向にあるということです。

一〇ａ当たりの生産量は、年間二期作合計で乾籾米役一ｔであり、ジャポニカ種は長粒種に比べ収量がやや低いようです。生産者価格は、長粒種が一kg当たり約二十五円、日本品種が約三十七円であり、玄米一俵に換算すると約二千円から三千円という低い価格です。

ホーチミン市近郊メコンデルタ地域で十年前に百万円で自宅を新築したという平均的な稲作農家で話を聞くことができました。

水田五〇ａで約五ｔの籾を生産し、販売額約十三万円と焼酎の製造販売等で生活していると話してくれました。この焼酎を気前よく我々に振舞ってくれた訪問先の農家夫婦、また、日本で最近被害が拡大しているジャンボタニシを採取（食用）している子供が鮮明に記憶に残っています。栽培方法は直播で収穫専門業者に依頼し生籾で販売しているということです。

ベトナム産米は「味と品質はそこそこで価格が安い」「砕米が多い」という評価・特徴を有し、輸出価格（精米一〇kg当たり）は、長粒種が四五〇円、ジャポニカ種が九〇〇円と日本の米価の五分の一から一〇分の一という安価で流通しており、過日、日本農業新聞で報道されていたとおり「価格ではとても勝負にならない」ことを実感しました。

また、ベトナムでも農作業の機械化が進んでおり、ホーチミン市から農村部に向かう幹線道路の両側は日本から輸入された中古農業機械が延々と展示販売されており、今後、生産力や生産性は更に向上すると思われました。

一方で、ベトナムは社会主義国ですが、「ドイモイ」政策により社会経済は活性化しているように見受けられる反面、農村部から若者が減っているという、日本と同じ現象が起きていると聞きました。社会主義と資本主義の狭間で暮らすベトナムの稲作農家の実情を聞きながら、グローバル化が加速し経済政策が最優先される現在、どうすればそれぞれの国の人々が土地や風土に慣れ親しんで築き上げてきた「かけがえのない農業や文化」を守り伝えることができるのか改めて考えさせられた暑いメコンデルタでした。

（委員　高橋　正和）

稲作農家での談話状況

直播稲の生育状況

農地に関する相談は、農業委員会で受付けています。

連絡先　白子町農業委員会

０４７５（３３）２１１５